ひたちなか市教育委員会会議録

令和7年 第3回 ひたちなか市教育委員会 3月定例会 会議録					
令和7年3月13日(木)		開会 午後5時00分		閉会 午後5時30分	
場 所	市役所第3分庁舎 教育長室				
出席委員	教育長 秋本 光徳	教育長職務代理者 佐藤 達	委 員 鬼澤 宏幸	委 員 大塚 佳代子	委 員 原 嘉昭
欠席委員					
会議に出席した事務局職員	補 職 名				氏 名
	教育部長				箱崎 勝子
	教育担当参事				檜山 知之
	総務課長				田口 清幸
	総務課課長補佐兼係長				菊池 徳
議案審議等	議案第3号	県費負担教職員の人事の内申について【非公開】			
その他	その他(1)	市立学校運営方針2025について【公開】			

令和7年第3回ひたちなか市
教育委員会3月定例会会議録

開会 17:00

教 育 長 (あいさつ、開会の宣言)

今日の議案は、教職員人事の内示についてでございます。今年度も終わりに近づき、教職員人事の案がまとまったという段階です。

今日も市の方は市議会が開催され、予算も議決に向けてという段階になって参りました。1年間本当に教育委員の皆様方にご助言等をいただき今日を迎えることができましたこと、本当に御礼を申し上げます。

また、前回の委員会におきまして教育委員の皆様にご提示させていただいた、次年度の方針につきまして、市内学校に展開し、認識していただきながら目標を持って学校運営を頑張っていただければということで各学校にお示ししたいと考えております。

それでは令和7年第3回教育委員会の3月定例会を開会いたします。

教 育 長 議案審議については、公開することにより率直な意見の交換や意思決定の中立性が損なわれるおそれがあるため非公開にしたいと思っております。

非公開とするときは、討論を行わないでその可否を決定しなければならないとされていますので、この案件を非公開とすることに賛成の方の挙手をお願いします。

(全員が挙手)

教 育 長 全員賛成ですので、非公開といたします。

議案第3号 県費負担教職員の人事の内示について

*議案第3号 県費負担教職員の人事の内示については、全員一致で可決されました。

教 育 長 非公開を解きます。

その他（１）市立学校運営方針 2025 について

教 育 長 ここで先月申し上げました市立学校運営方針 2025 につきまして追加した箇所についてご説明させていただきたいと思います。

資料の赤字記載のところが前回から加わったところです。先日の総合教育会議におきまして、社会科の副読本をブラッシュアップというお話などいただきました。それを受けて体験する事業や行事などをデジタル上で作っておいて、どこの学校でも使えるように、例えば佐野の方からも虎塚古墳を見に行ける、というようなものがふるさと体験プログラムというものです。

那珂湊の方には郷土かるたというものがあるのですが、かるたを作るまではいかないのですが、それに代わるようないばらきっ子郷土検定のひたちなかバージョンの様なものとして、出口としてひたちなか検定というようなものを作ればと思っています。

もう 1 つは働き方改革のところで、市町村版の働き方改革ガイドラインというものを、令和 8 年度から実施できるように作成するというように、今回の給特法改正の流れで条件がつけられてくる予定です。

補足の説明として次のページに書かせていただきました。

新規というところの 1 番です。

ふるさと体験プログラム、という名称が現在いいかなとっております。社会科副読本を作っていたのは教育研究会の社会科の部会の方々を中心だったんですが、理科の先生なども手伝っていただいて、あとは商工会議所にもお手伝いだけそうな感じで話がついており、あとは高専さんにも、ご協力いただければありがたいと思っております。

指導課が窓口を担ってくれることになっておりますが、指導課だけでは難しいので、ワーキンググループを組織して進めていければと考えております。

出口としてのひたちなか検定ですが、知識習得の結果発表なので、小学校 5、6 年生が妥当かなと考えており、例えばですが振興大会などで催すことがいいのかな、と思っております。対象者とその発表のイベントの場所については全くの未定です。これも商工会議所や青年会議所で以前やってらしたノウハウがあるようなので、そちらにもご協力いただければと考えております。

あと 3 番です。

業務量管理・健康確保措置実施計画というのが文科省から出ている資料に載っています。2026 年 1 月から、教職調整額が 4 % から 5 % になり、6

年間かけて10%になる、その代わりにきちんと業務量時間管理しよう。もう1つは、先生達の健康管理をきちんとしようという計画を市町村単位で作るといふものです。

公立学校教員の勤務時間の上限に関するガイドラインというものが平成31年1月に出たのですが、それを受けて茨城県が県立学校について作ったのが、令和3年4月です。都道府県と政令指定都市だけはガイドラインを作る義務があり、市町村は免れていたのです。ところが今度はそうはならないというのがいよいよ始まるということです。

新規の項目については以上でございます。

【質疑、意見等】

原 委 員 ふるさと体験のワーキングですが、いつくらいに開催することを想定していらっしゃるのでしょうか。

教 育 長 まだまだこれからです。これからご相談乗っていただけますと幸いです。

原 委 員 ぜひよろしくをお願いします。

教 育 長 キャリア探検ラリーが始まったばかりですので、そちらもいろいろお願いしたいところがあります。ただこのプログラム全体の完成は1年間かけて行うことになると思います。その検定の実施について、令和7年度末がいいのか、それとも8年度にした方がいいのか、4月、5月のうちには、結論を出しておきたいと思います。

鬼 澤 委 員 検定の対象者というのは、子どもたちでしょうか。一般の方も考えられるのでしょうか。

教 育 長 まずは子どもたちと考えています。一般の方や市外から勤めに来る先生などにも参加していただくことも考えられますが、広がり過ぎてしましますのでその次の段階での話になると思います。

鬼 澤 委 員 そのような取組、面白いですね。

教 育 長 笑顔サミットを那珂湊のふれあい館で行っておりますが、これは市内全部の学校の生徒会役員児童会役員が集まって行うので、その場で例えば海

沿いにある学校と常磐線沿いにある学校でクイズを考えましょう、とかお互いにいいところを探し合って、なんていうふうになるといいかな、と勝手に思っております

鬼澤委員 そのようなことは大事なことだと思っており、地元のことを分からないまま育っていることは結構ありそうです。

教育長 ふるさと体験ですが、プログラムにすると、白亜紀層から、古墳から、農業体験から、最後はG1タワーに行くとももにはサギ山という生態系が残って猛禽類もいるというのが残っていますので、また、戦争の跡とかですね。トータルで副読本ってある程度掲載されているので、検定と選考を経ている教科書を使わなくても、この体験プログラムを経験するとひたちなか市民として1人前になるというものを作れるといいのですが。ですのでそのプログラムの方は1年間かけないと良いものはできないかなと思っております。

鬼澤委員 いい試みですね。

教育長 ぜひご協力をよろしく願いいたします。

教育長 (閉会の宣言)

閉会 17:30